

薩摩川内市議会の女性議員お二人にお話を伺いました。次の三つの質問に対してお答えをいただきました。次回からは男性議員のみなさんにも伺ってみたいと思います。

質問一 議員を目指した理由

質問二 女性に生まれて良かったこと、悪かったこと

質問三 男女共同参画をどう進めていこうと考えますか



中島由美子議員（元小学校教員）

質問一

昭和五十七年に、県の教員採用試験に合格し、小学校教員として採用されてからこれまで、教員として子どもたちの教育に関わることを天職として参りました。だから、議員になりたいと思ったことは、正直全くありませんでしたが、今回合併して薩摩川内市に大きく広がる時には是非市議にとのお声がかかりました。必ず当選するという可能性もない状況で、全くの賭けではありませんが、一度しかない人生、皆様からの声がかかった以上挑戦してみようという気持ちと女性議員がもつと存在した方がいいんじゃないかという気持ちで今回立候補し、見事当選させていただきました。次第です。支持者の方々をはじめ、たくさんの方々の期待の支援を頂いたと思っております。女性に対する期待にお応えできるよう努力して参ります。

質問二

女性だったから良かったとか、男性だったらこうだったとか、考えたことはありません。四十数年生きてきて、いろいろな経験をしましたが、私なりに一生懸命生きてきて、今日があります。これからいろいろなあるでしょうが、自分らしく生きていけたらと思っています。

質問三

男女共同参画といっても、結局一人ひとりの人間として自分らしく個性を発揮し、やりたいことが性差によってできないということがないことが大事だと思います。薩摩川内市において、まだまだ女性が結婚し、子どもを産み育てながら働き続けることは、厳しい状況にあるようです。妊娠したら辞めないといけないとか、育児休暇が思うようにとれないとかです。また、子どもを預けて働くのに、病気やけがをしたらお迎えに行かないといけないし、休みをとらないといけないし、本当に大きな負担が女性にはかかっています。女性も自分の力を生かし、ずっと働き続ける権利があると思います。子どもを産み育てるためには必然的に仕事を中断せざるを得なくなります。仕方がない面もあるとはいえ、女性が仕事を中断し、その力を発揮できないのは、男性も女性も同じ損失であるとは思っています。男性が仕事を休むのは大きな損失で、女性には小さい損失というのはいさかいということだと思います。だから、育児に男性ももう少し積極的に参加してほしいし、男性も育児休暇をとれるくらいのゆとりのある社会になればと思っています。そのことが、女性が子どもを産み育て、働いていける社会につながると思うからです。経済が低迷の時代にあって現実には難しい理想なのかもしれませんが、男女力を合わせて、子育て参加の社会をつくっていききたいと思っています。子どもたちの健全育成のためにも。

この人に聞きたい

